

殺し合え。
織田信長と名乗る人間にそう言われた。
別に反対する意見はない。
殺戮こそ演劇を盛り上げるには欠かせないものであるし、
殺戮を繰り返して真祖のカタチと力を手に入れて第6法に到達することこそワラキアの夜の目的
でもある。
ワラキアの夜は喜々として殺し合いに乗ることにした。

「しかし、この人間は妙だな。
ただの物置に恐れるとは」

ワラキアはタタリによって得た自分の姿を眺めてみる。
夜天の空の下に堂々と立っているソレはどう見ても物置だった。

「...まあいい。私は出来る限りの殺戮を行なうだけだ。
人間が恐れる物置がどれほどの性能か。楽しみにさせてもらうか」

【二日目・22時/新惑星・静岡県】

【ワラキアの夜@MELTY BLOOD】

【状態】健康、イナバ物置の姿

【装備】不明

【道具】支給品一式

【思考】

1、参加者の殺害